

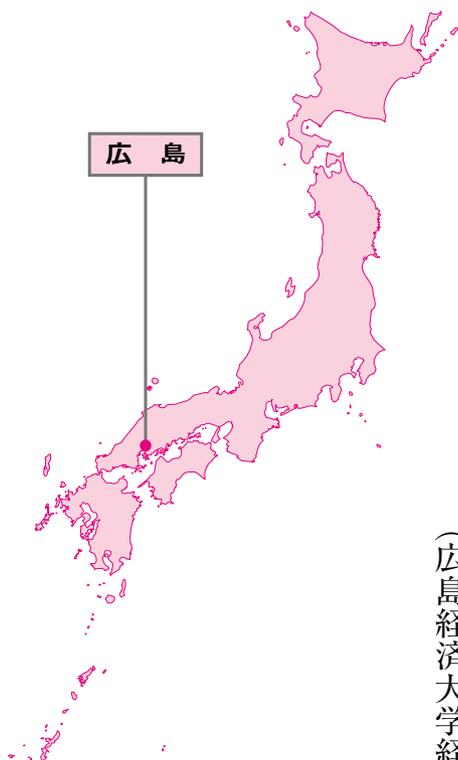
各地の学窓から



広島県における 高校新卒者の 県外移動の縮小

溝口敏行

(広島経済大学経済学部教授)



わが国は、人口規模が大きい国の中で各種の地域間格差が比較的小さい国

とされているが、その背景には明治維新以降一〇〇年以上にわたる全国規模

の労働移動があった。近代産業から生じる労働需要に応じて、地方に潜在していた過剰労働が解消され、地域間の所得格差も縮小した。労働移動は単に経済効果をもたらしただけでなく、婚姻権の拡大や文化の融合等の社会生活にも影響を与えた。しかしバブル経済崩壊後、労働需要の減少に伴って労働の地域間移動も縮小方向にあるとされる。少子化の影響もあって、両親との同居または近所の住む準同居を希望する家族が増大していることもその背景にあるように思われるが、このような傾向は地方により顕著に現れているように思われる。

その例として、広島県高校卒業者の県外移動を、「学校基本調査」の数値で検討して見よう。広島県では高校卒業者の県外就職率が全国平均と比較して低いことが知られていた。試みに平成元年の県外就職率をみると、全国平均が二三・六%であるのに対して、広島県の値は一〇・二%を示している。その背景としては、県内に存在する企業が就業機会と就職希望者数とを若干上回っていたことが挙げられる。より詳細にみると、高校新卒者の広島県への流入の大部分は山口県となっており、広島・山口にまたがる半独立的な労働市場が成立していることが見出される。平成に入ってから、県外就職率の全国平均は低下しているが、広島県の比率も低下しており、この経路を通じての労働移動の役割はきわめて低いものになっている。

高校卒業者の労働移動を考えるには、大学進学への動向にも注目されなければならない。広島県の大学進学率は男女

とも全国水準を大きく上回り五〇%を超えている。大学が少数エリート¹⁾の教育機関であった時期には、大学進学は「地方区」から「全国区」へ羽ばたく門出であった。しかし大学数の増加もあってその役割に大きな変化が生じている。最近大学関係者の中で、入学者の出身高校の地域分布が狭くなっているとの感想が聞かれるようになった。すなわち、全国から学生を集める一部の「有名大学」を除けば、大学の地域密着が進行し、労働の県間移動の機能も縮小していることが示唆されている。

この傾向は学校基本調査によっても裏付けることができる。同調査には、大学所在地と出身高校所在地をクロスさせた学生数の分布が示されている。この表から出身高校と同一の県に所在する大学に進学した学生の割合は、広島県では平成元年三六・六%から平成一五年の間に四八・八%に急増している。これは全国平均の対応値が三七・三%から三九・五%に微増したのと対象的である。広島県は県内の大学進学希望者数に比較して学生定員数の多い地域とされており、地域密着型の進学形態が先行している例といえるかもしれない。

溝口敏行(みぞぐち・としゆき)

経済統計論専攻。主な著書・論文として、『日本の統計調査の進化——二

〇世紀における調査の変貌』(広島経済大学研究双書、二〇〇三在)、『事業所・企業統計調査の役割と問題——SOHO

活動の把握を巡って』(広島経済大学経済研究論集二四巻三号、二〇〇一年一二月)など多数。

職事情

【上】

犬丸義一校訂



書N100-1
岩波文庫

『職事情』

農商務省商工局編

岩波文庫 上中下三巻(1998年発行)

もし現代に労働基準法も労働組合も無く、工場の機械も原材料も買う金を、労働者の低賃金・長時間の成果で得られたものに限られたら、労働者はどのように働かされるか。

一〇〇年前、憲法や刑法・民法など基幹の法律ができたあと、労働者保護の法律を作ろうと苦勞した農商務省が、当時の代表的産業の工場現場における労働実態を雇い入れ、労働条件、衣食住を含めて調査した。本書はその報告書で、内容は戦後まで非公開だった。

募集人が少女の親に高賃金・休日十分・花嫁修業可能と騙して連れ去る。現場では就業規則で朝の暗いうちから一日一三時間労働、だが夜は時計の針を逆回し、賃金は出来高払のうえに不合格品だと難癖付けて減額、月ごとに優秀者表彰・劣等者名書き出し。その競

争での過労が病気を引き起こし、解雇される。これは山本薩夫監督・大竹しのぶ主演の映画「あゝ野麦峠」だが、実は本書の「生糸職事情」から採られた場面である。

文庫本は一九〇三年発行の原版による。上中巻に綿糸・生糸・織物・鉄工・ガラス・セメントなど一六業種、業種により密度の差はあるが、職務内容・労働時間・休暇日・雇用方法・賃金・衛生・賞罰・住居・風紀・教育訓練など細部に及ぶ。下巻は役所内部での酷使関係の照会・調査文書や調査でのナマ発言録。記述は淡々として労働者との問答はすべて録音テープ起こしに似たナマ表現を使う。説明抜きの原表現が読む者の心を打つ。

どの業種を読んでも、いま生きていれば一二〇歳位の人々が、当時四年だった義務教育も不満足のまま、工場での怪我の治療もままならず働いた姿に暗然とする。

古典とは読者にとって、①心打たれ忘れられぬ②読むたびに新発見がある③いまの仕事・関心事に関係ある本なら原点・出発点を呼び戻してくれる、という特質をもつ。本書を人事・労務に就いている人々の第一の古典に挙げたい。放置すれば雇主はコスト引き下げ策を安易に労働者酷使に求め、労働者は、手抜き・怠業で対抗する。その原点を本書は素描してくれる。本書と私の接点。戦後二年を迎

える抑留労働―長時間労働と空腹とゼロ賃金―で現場労務係として苦闘し、それを生涯業務にと決心して帰国、労働問題専攻の学校に入った。そのときに本書が生活社から初めて公刊され、私への入学記念品だと感じられたこと。



孫田 良平

(まごた・りょうへい)

労働評論家

Profile

早稲田大学政治経済学部卒業、労働省統計調査部、中労委事務局調整担当課長などを経て、1987～2001年四天王寺国際仏教大学教授。著書に『21世紀への人事戦略』(共著)、『実質賃金の国際比較』『年功賃金の終焉―昇給ゼロ時代への対応』など多数。

図書館だより

2月の主な受け入れ図書

① 願興寺皓之著『トヨタ労使マネジメントの輸出』ミネルヴァ書房 (ix+190頁,A5判) 1980年代以降、日本企業の海外進出の増加に伴って、「日本的経営」の海外への移出可能性が盛んに議論された。研究上の議論は下火になったが、その裏では、個々の進出企業が、日夜、実践的な試行錯誤を繰り返していたであろう。本書は、トヨタ労使の実践の丹念な記録であるとともに、それに基づく分析の書でもある。	④ 樋口美雄他編著『団塊世代の定年と日本経済』日本評論社 (x+298頁,A5判) 財務省財務総合政策研究所による平成15年11月から半年間の研究会活動の成果である本書は、大量の退職者の発生が日本の経済社会へ与えるインパクトは、雇用・労働面、企業経営、不動産市場、貯蓄・消費にまで及ぶと説く。未曾有の事態にどう対処していくかを検討する時間は、そう十分に残されているわけではない。
② 赤川学著『子どもが減って何が悪い！』筑摩書房 (217頁,B6判) 久しぶりの戦闘的・好戦的なタイトルの書である。しかし、同じような疑問をもっている人は多いのではないかと(小児もそうである)。男女共同参画社会が実現したとしても、少子化は止まらない、と説得的に論を展開している。国民全体がこの問題に対して判断していくために、内閣府の担当局・者の早急な反論を期待したい。	⑤ 榎田佳代著『ビッグイシューと陽気なホームレスの復活戦』ピーケーシー (268頁,B6判) リスク管理が喧伝されている。大企業に就職したとしてもいつリストラされるか、あるいはいつ事故に遭遇して働けなくなるかわからないからである。いくら予防しても事故は防ぎようがない。事後にどう対処するか、以後の人生にどう向き合うかが大事である。ホームレスの人たちの陽気な生き方にその解決策をみることができる。
③ 富永健一著『戦後日本の社会学』東京大学出版会 (xii+471頁,A5判) 本書は、社会学の泰斗の同時代史(戦後の個々の社会学者の著作への著者のコメントを付した社会学史)である。戦後60年、綺羅、星のごとく社会学者が登場するが、学問とは、いかに一步一步踏みしめ、反論、確認されて進歩していくものであるかが痛感される。他の学問分野についても、同様な力作の誕生を希望したい。	⑥ 小浜ふみ子著『職業キャリアからの脱落』愛知大学経営総合科学研究所 (iii+111頁,A5判) 若年雇用問題、特にフリーター・ニート問題は、最重要課題の一つである。豊かな社会の必然の産物と達観するとしても、将来の日本を背負って立つ人材の育成に禍根を残す恐れもある。同時代に生きる先輩として、今後続く人たちに満足できる職業生活を送ってもらうために、本書のような地道な研究が続くことを願いたい。
⑦ 野村総合研究所著『ベビーブーマー・リタイアメント』野村総合研究所 (324頁,B6判) ⑧ 吉原健二著『わが国の公的年金制度』中央法規出版 (341頁,A5判) ⑨ 都留康他編『選択と集中』有斐閣 (viii+294頁, A5判) ⑩ 吾郷眞一著『国際経済社会学』三省堂 (v+233頁,A5判) ⑪ 山城紀子著『<女性記者>の眼』ポーターインク (197頁,B6判)	⑫ 多田とよ子著『明日につなぐ』ドメス出版 (242頁,A5判) ⑬ 日本ILO協会編『先進国の労働運動と国際労働組織』日本ILO協会 (167頁,A5判) ⑭ 斉藤州紀著『中小企業・ベンチャー企業への就職のすすめ』TAC (271頁,A5判) ⑮ 吉田文・広田照幸編『職業と選抜の歴史社会学』世織書房 (iv+352頁,A5判) ⑯ 福島直樹著『第2新卒の「転職力」』弘文堂 (179頁,A5判)

(新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください)

抄録・要旨を掲載していること
です。ごく短いものですが、一
点一点の調査研究報告書にあ
って、独自に要旨を作成し、登
録しています。また、本DBの
優れている点は、蔵書DBとの
連携機能が内蔵されていて、当
該報告書の所在状況が一目で把
握できることです。報告書本
体は当館が所蔵しています。基
本的に貸出も可能です。是非、調
査研究成果DBにアクセスして
みてください(なお、労働関係
の調査研究報告書の網羅的収集



先月号に引き続き、当館でデ
ータを更新(基本的に追加のみ)
している文献関係のデータベ
ース(DB)の一つをご紹介します。
DBは、いわゆる白表紙(主に、
市販されていない報告書等)の
書誌データ・概要等を収録した
ものです。平成一七年一月一日
現在、八、一一一件のデータが
登録されています。このDBの
特徴の一つは、目次とともに、

今月の耳より情報

は、当館の重点課題の一つです。
報告書を発行された場合、是非
当館にご寄贈いただければ幸い
です。書誌情報、抄録を作成、
登録し、永く所蔵資料として、
当機構の研究の参考資料とさせ
ていただくとともに、広く一般
にも提供してまいります。趣旨ご
理解の上、よろしくご協力お願
いいたします。

図書館長のつぶやき

当館では、提供の必要がなく
なった雑誌、管理換えをしても
効率的な提供ができない雑誌に
ついては、内部手続きを経て不
用決定をし、売却・交換処理を
実施しています。平成一六年度
も、平成一七年二月一日から
同二月二十八日までの二週間、当
機構のホームページ、メールマ
ガジン等で買取・交換希望を募
集しました。その結果、四四タ
イトルの雑誌の買取契約が成立
しました。さらに、買取されな
かった雑誌の内部での再利用も
含めて、九〇余の雑誌が断裁の
憂き目をみずにすみました。書
庫スペースは、図書館にとって
の重要な経営資源とはいえず、そ
のために雑誌を廃棄処分しなけ
ればならないというのは、まだ
まだ図書館の新米としても、忍
びないものがあります。この悩
みは、デジタルライブラリーが
完成しなければ解決できないも
のなのでしょうか。



ご案内
労働図書館(資料センター)

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発
行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経
営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、
労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収
集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録や
OECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集し
て閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴
史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間:9:30~17:00

休館日:土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号:03(5991)5032/FAX:03(5991)5659

利用資格:閲覧はどなたでも自由にできます

貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンスサービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています